第２ 【事業の状況】

１ 【事業等のリスク】

当第３四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

２ 【経営上の重要な契約等】

当第３四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の変更は以下の通りです。

フィールズ株式会社（提出会社）

相手方の名称	契約品目	契約内容	契約期間
株式会社ビスティ	パチスロ遊技機	株式会社ビスティの独占的販売代理店として同社の製造する回胴式遊技機を購入し、これを転売するための契約	平成25年10月１日から 平成26年９月30日まで 以後協議の上、更新予定 （継続更新中）
	パチンコ遊技機	株式会社ビスティが製造するパチンコ遊技機について独占的に販売業務を受託し、これを販売するための契約	平成25年10月１日から 平成26年９月30日まで 以後協議の上、更新予定 （継続更新中）

３ 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 業績の状況

当第３四半期連結累計期間（４月－12月、以下「当第３四半期」）の概況

売上高は54,204百万円（前年同期比13.5％増）、営業利益2,036百万円（前年同期は営業損失1,156百万円）、経常利益2,066百万円（同 経常損失975百万円）、四半期純利益1,227百万円（同 四半期純損失677百万円）となりました。

業績変動の主因は、下記の通りです。

遊技機事業において、当第３四半期は総発売元としてパチンコ４機種、パチスロ３機種（前年同期はパチンコ３機種、パチスロ３機種）を販売しました。パチンコ『エヴァンゲリヲン』シリーズ最新作をはじめとした有力機種を順次投入したことで、総販売台数が前年同期と比較して増加しました。

また、当社グループが保有する『ウルトラマン』シリーズにおいて、テレビシリーズや円谷プロ50周年イベントをはじめとした各種施策の展開が功を奏し、収益が拡大しました。加えて、映画、ゲーム、パチンコ・パチスロなど各メディア向けのCG映像制作において受注が増加し、収益も拡大しました。

これらにより、上述の経営成績となりました。

（中長期的な成長戦略）

当社グループは、キャラクターをはじめとしたIP（知的財産）を主軸において、取得・保有・創出したIPの価値を最大化することで持続的な成長を目指しています。

この中長期的な成長戦略の実現に向けて、現在、コミックス、アニメーション、映画/テレビ/ライブエンタテインメント、ゲーム事業などのインタラクティブ・メディア、コンシューマプロダクツ、パチンコ・パチスロの６分野で、IPの価値向上を推進するとともに、各分野が連携してIPの育成・事業化に取り組んでいます。

当第３四半期の主なIPの育成・事業化の取り組みは、以下の通りです。

ヒーローの創出を目的としたコミック誌『月刊ヒーローズ』は、連載作品の単行本を順次刊行するとともに、さらなるファン拡大に向けて、複数の映像化プロジェクトを推進しています。

『銀河機攻隊 マジェスティックプリンス』は、コミック誌と連動したテレビアニメの放送やグッズの開発・販売に次いで、本年２月にソーシャル・ゲーム（ネイティブ・アプリ型）を配信する予定です。

『ウルトラマン』シリーズは、ファミリー層のファン拡大や新たなファン層の獲得に向けて、『ウルトラマンギンガ』『大怪獣ラッシュ ウルトラフロンティア』のテレビ放送や映画公開、パートナー企業と連携したアーケードゲームの展開に次いで、ソーシャル・ゲーム（ネイティブ・アプリ型）の配信やパチスロ遊技機の販売を行いました。

インタラクティブ・メディアの分野では、IPの価値向上と収益の最大化を図るべく、ソーシャル・ゲームにおいてタイトルの選択と集中を進め、５タイトル（WEBアプリ型４タイトル、ネイティブ・アプリ型１タイトル）を配信しました。

パチンコ・パチスロの分野では、パチンコ遊技機の販売台数が約139,000台（前年同期比 約60,000台増）、パチスロ遊技機の販売台数が約92,000台（同 約400台増）となりました。

（注）本文に記載の商品名は各社の商標または登録商標です。

(2) 財政状態の分析

（資産）

流動資産は、41,299百万円と前連結会計年度末比31,410百万円の減少となりました。これは主に売上債権の減少によるものです。

有形固定資産は、11,632百万円と前連結会計年度末比481百万円の増加となりました。これは主に支店の新設用地取得によるものです。

無形固定資産は、4,502百万円と前連結会計年度末比37百万円の減少となりました。

投資その他の資産は、17,998百万円と前連結会計年度末比227百万円の減少となりました。これは主に投資有価証券の増加及び長期繰延税金資産の減少によるものです。

以上の結果、資産の部は75,433百万円と前連結会計年度末比31,194百万円の減少となりました。

（負債）

流動負債は、15,860百万円と前連結会計年度末比31,505百万円の減少となりました。これは主に仕入債務の減少及び未払法人税等の減少によるものです。

固定負債は、4,279百万円と前連結会計年度末比115百万円の増加となりました。

以上の結果、負債の部は20,140百万円と前連結会計年度末比31,389百万円の減少となりました。

（純資産）

純資産は、55,293百万円と前連結会計年度末比195百万円の増加となりました。これは主にその他有価証券評価差額金の増加によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第３四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ4,111百万円減少し、19,197百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、398百万円（前年同期は253百万円の収入）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益2,040百万円、売上債権の減少31,887百万円、仕入債務の減少27,728百万円、法人税等の支払5,929百万円等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、2,460百万円（前年同期は4,151百万円の支出）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出1,236百万円、無形固定資産の取得による支出1,061百万円、貸付けによる支出430百万円等によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、2,043百万円（前年同期は2,097百万円の支出）となりました。これは主に配当金の支払1,651百万円、社債の償還による支出300百万円、長期借入金の返済による支出84百万円等によるものです。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。